

花がたみ

長唄

全詞章

作詞者・作曲者・初演年不詳

原典の本文の題名「華がた見」

花曇りの後は晴れ行く名所の、花は咲けども、わしや思ひの真澄鏡、
曇りがちなるをんなぎの、心は二つ身は一つ

なれば言ひ訳する墨に、筆の命毛今宵限りと悟れども

涙に剥げし化粧坂、少将の夜の雨、降る夜はひとしほ懐かしや

風の便りに曾我の里、案じ暮らしてゐるさの障子、明けて言はれぬ言の葉に

返す返すも曾我を御無事と祈りまゐらせ候ふかしく